

2021.10.24

ご報告：10/23 第 26 回働学研（博論・本づくり）研究会

十名 直喜

秋冷えが感じられるなか、10/23 第 26 回働学研（14～17 時）が、開催されました。

下記 25 名に、ご参加いただきました。

（敬称略：池上、岩田、太田、大松、小野、片山、岸本、熊坂、木林、小林、桜井、澤、田中、槌田、程、中谷、中野、濱、藤岡、包、堀、守友、安嶋、横田、十名）

研究会前の 10 分間（16:50～17:00）は、初参加の大松さんから自己紹介していただき、堀さん、安嶋さんからも近況をお話しいただきました。

本番は 2 部構成で、6 本の研究発表がなされました。第 1 部は濱さん、第 2 部は太田さん、に司会をしていただきました。熱のこもった発表、そして活発な議論が展開され、時間的にハラハラドキドキの局面もありました。司会の妙と各位のご協力もあって、30 分/本に沿って進めることができましたこと、感謝申し上げます。

10/23 第 26 回働学研プログラム

（総合司会：十名、画面：澤 & 発表 15 分・議論 15 分：計 30 分/本）

第 1 部：感性価値・西陣織・協同労働への新たな視座（司会：濱）

小野 満：「商品の機能価値と感性価値」

岸本正美：「西陣織地域のまちづくりとその変遷 —松井久美枝氏の研究をふまえて」

小林伸孝：「協同労働と自営業への新たな視座

—分散型企業組合にみる重層的な協同関係をふまえて」

第 2 部：工具論・ごみ問題・博論をめぐる技術・経営・文化（司会：太田）

片山勝己：「ICT 活用からみる新旧工具商の事業モデルとその差異」

程 遠紅：「第 1 章 中国の都市生活廃棄物問題への視座

—歴史・文化・循環システムアプローチ」

濱 真理：「博士論文の申請・授与に至る過程」

6 本の発表の趣旨と論点など詳細は、以降をご覧ください。

<第 1 部>

小野さんの発表は、機能と感性の視点から商品価値を捉え、情報が消費にもたらす影響と意味を考察されたものです。コモنزの解体、帝国的生活様式がもたらす地球環境破壊、希少性、楽しみの創造、現代の生産力論などにも言及されています。それらの論理的つながり、欲求と消費のあり方、社会正義など、多様な視点から議論が交わされました。

岸本さんの発表は、西陣織地域のまちづくりとその変遷について、松井久美枝[1979]をふまえて考察されたものです。40年以上前の先行研究を現代的にどう読み解くか、その意義と限界は何か。西陣研究の現代的意義は何か、西陣の歴史にみる伝統と革新、現代における継承・発展の動き、職人論等をめぐって、興味深い議論が交わされました。

小林さんの発表は、分散型企業組合の視点から協同労働と自営業のあり方について考察されたものです。この分野に造詣が深い池上先生から、含蓄深い助言がなされました。

「協同労働、協同経営の研究は少ないが将来性がある。経営者と労働者という2つの機能に分けて考察し、個人事業主という総合化された人格として統合的に捉え直すべし」

<第2部>

片山さんの発表は、ICT活用の視点から新旧工具商の事業モデルを比較考察されたものです。業務研究の労作を学術論文へと洗練化していくプロセスも示されました。生産現場における工具の役割、工具の生産と流通の仕組みと特徴、工具をめぐる情報が持つ意味と役割、新旧事業モデルの今後のあり方、等をめぐって興味深い議論がなされました。

程さんの発表は、博論の第1章（「中国の都市生活廃棄物問題への視座—歴史・文化・循環アプローチ」）についてです。古代中国の土壤保全とごみ循環利用をめぐる、19世紀ドイツの化学者リービッヒの高い評価に注目すべし。廃棄物処理をめぐる市場メカニズムが機能しないのはなぜか、法的ルールの整備状況もふまえるべし、等の指摘がありました。

濱さんの発表は、論文申請から博士（経営学）授与に至る1年半のプロセスを詳細に考察されたものです。細部まで丁寧な体系的な分析と提示は、これまでにないものです。3人続いた論文博士の中でも、博士課程を経ない第1号です。単著書としての出版を、検討されています。博論の文字数や公開のあり方などについて、議論が交わされました。

なお、11/20 働学研には、5人から発表の申し込みをいただいています。

（大松さん、日程がOKかどうか、至急お知らせください）

桜井 善行：「シニアのペイド・ワークと生き甲斐 一人とのつながりこそレジリエンス」

大松美樹雄：「地域医療福祉と市民的ガバナンスの課題」（日程調整中）

槌田 洋：「経済グローバル化と持続可能な都市」

包 薩出栄貴：「中国内モンゴルにおける循環型観光まちづくり」

十名 直喜：「『サステナビリティの経営哲学』出版構想」

また、12/18 働学研についても、発表申し込みを受け付けています。

すでに、井手さん（テーマ未定）から申し込みをいただいています。

各参加用 URL は十名までお問い合わせください。

月例会では、毎月6本以上のプログラムを組んでやってきました。これは、素晴らしいことですが、準備も大変で、その場しのぎの様相も呈していました。今後、1-2か月先をも

見越しながら、より計画的に進めることができればと思っています。ご協力をお願いします。

<付記>

先日お知らせしました下記の講演会、11月5日（金）18時～20時に開催されます。

十名直喜「経営哲学は今、なぜ求められているか ― 渋沢栄一にみる日本資本主義の原点と21世紀課題」

講演会は、アジアユーラシア総合研究所 企業倫理研究プロジェクトの主催です。

URL は下記の通りです。クリックしていただくと、開催の趣旨や参加要領などが紹介されています。

<https://www.asia-eu.net/20211105rinri>

講演会は、申し込み時に、名前、メールアドレス、所属のところに「働学研会員」と追記していただくと無料とのこととです。

渋沢栄一のNHK 大学ドラマも佳境に入っています。もし、ご興味いただければと思い、お知らせする次第です。

働学研関係者からも多数、参加の申し込みをいただいているとのこと、ありがとうございます。どうかよろしくお願いします。

SBI 大学院大学にて昨秋より、「経営哲学」講義を行っています。超マイナーな講義のはずが、想定外の盛り上がりを見せています。

そのご縁が、今回の講演会につながっています。

「経営哲学」講義の一部を手がかりに、下記の論文を投稿し、校正中です。

十名直喜[2022.1]「サステナビリティの経営哲学 ― 渋沢栄一にみる日本資本主義の原点と21世紀課題」『SBI 大学院紀要』第9号。

また、この1年間に公刊する作品8本（19万字）をベースに、本としての出版も検討中です。講演会には、出版社2社にご参加いただき、「審査」していただこうと考えています。本つくり研究会の場に出来ればと思っています。